

互いの教育内容や子どもについてわかり合う「連携」と
子どもの育ちを見通してつなげる「接続」

「連携」と「接続」 — 網の目のようにつなぐ —

幼児教育から小学校教育への連携・接続の推進を下のような段階で考え、地域や園・学校の実態を踏まえ、「連携」から「接続」へ網の目のようにつないでいく必要があります。

連携

1 子どもをめぐる情報の伝え合い

就学する子どもをめぐる情報を伝え合う場を作り、長期的な見通しのある幼児教育と、幼児教育の成果を踏まえた小学校教育を可能にする。

学びの姿を発信する
おたよりの交換

よさを共有し、つなぐ
移行支援会議

10の姿をもとに
要録等の活用

2 子ども同士の交流

近隣の園と小学校の間で、子ども同士の交流を進め、単なる訪問活動を越えた意味ある教育活動とする。

互いに力を発揮する
交流活動

3 保育者・教師による相互理解

保育者と教師による相互理解を図り、幼児教育と小学校教育の重なりやつながりを見出そうとする。

振り返りを重視した
保育参観・授業参観

学びを実感する
保育参加（保育体験）

4 環境や学びのつながりの工夫

幼児教育から小学校教育への接続の在り方を、園と小学校の集まりの中で検討する。特に、子どもがもっている力を発揮しやすい環境や学びのつながり等を意識して、どのような活動を入れていくか、接続期の在り方について工夫する。

子どもの姿をもとに
語り合い、聴き合う
接続推進会議

接続

5 教育課程の構築

幼児教育から小学校教育への接続で育成すべき資質・能力を見通した教育課程の構築を図る。

共につくる
スタートカリキュラム
の編成・実施

1 子どもをめぐる情報の伝え合い

園と小学校の先生方が子どもの姿を伝え合い、共有していくことが、連携の第一歩です。

すぐに取り組むことができる「おたよりの交換」、年間計画に位置付けられている管理職の先生方をはじめとする「行事等の行き来」、就学する子どもたちの様子を伝え合う「移行支援会議」、「園からの要録等の提出、小学校での要録等の活用」等、各学校で定着している取組です。長期的な見通しのある幼児教育と幼児教育の成果を踏まえた小学校教育の実現につなげていきましょう。

◆ おたよりの交換 - 子どもの学びの姿を発信する -

保護者や地域の方々向けに作成している「園だより」や「学校だより」、「学年だより」、「クラスだより」といった「おたより」では、行事や活動の予定や様子が伝わるだけでなく、子どもたちが学び、成長する姿を発信することができます。

園での「遊びの中で学ぶ姿」、小学校での「自分の力を発揮しながら、学びを進める姿」といった互いにめざす姿を具体的に伝える場になります。互いの保育観や教育観が効果的に伝わるよう、子どもたちの「学ぶ姿」をとらえ、言語化し、写真などと共に、発信していきましょう。

◆ 移行支援会議 - 一人一人のよさを共有し、つなげる -

就学する子どもたちの様子を聞き取ったり、伝え合ったりする際には、具体的な配慮事項とともに、一人一人の子どものよさを伝え、そして理解する時間をしっかりととりましょう。「よさ」とは、「その子らしいよさ」です。子どもの育ちにしっかりと関わり、寄り添ってきた園の先生方に、「その子らしいよさ」が発揮されるのはどのような場面なのか、どのような環境を整え支援していくとよいのか、どのように教師として関わっていくとよいのかを聞きましょう。そして、「よさ」が引き続き発揮され、さらに「その子らしさ」を伸ばしていくためには、どうしたらよいのかを考えましょう。

1年生と年長の担任だけに任せるのではなく、管理職をはじめ、全体の職員で情報を共有し、子どもたちとその保護者が安心して小学校生活のスタートを迎えられるよう、就学に向けた準備をしましょう。

◆ 要録等の活用 - 「10の姿」をもとに、一人一人の成長と教師の意図を共有する -

就学に向けて園から提出される要録等には、幼児教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を活用して一人一人の成長が具体的に書かれています。この一人一人の姿は、どのような関わりがあればその子らしさが発揮され、自信をもって行動できるのか、という成長の過程、学びの過程から捉え記されています。園生活における子どもの学びを知り、その学びに保育者がどのように働きかけてきたのかの意図を確かめるためにも、丁寧に読み、他の引継ぎ資料等と合わせて、一人一人を理解することが必要です。

2 子ども同士の交流

子ども同士の交流では、園と小学校にとって互惠性ある取り組みを行うことが大切です。つまり、「してあげる」「してもらう」の一方的な活動ではなく、園児と小学生が、一緒に活動しながら、「共に考える」「共につくりあげる」といった学び合いが生まれる活動にしましょう。そして、「全てうまくいく」ことだけが大事ではなく、「うまくいかない時に、どうするとよいか考え、行動する」場面を生かすことこそ学び合いの必然性が生まれるのです。

◆ 交流活動 – 状況に合わせて、今ある力を発揮する活動に –

交流活動は、シナリオ通りに段取りよく進めていくことだけが大事なのではなく、考えて行動できる姿が大切です。状況に合わせて、今ある力を総動員して発揮できる場面を重視して交流活動をデザインしましょう。

そのためには、園と小学校の先生方が、現時点での子どもの姿を伝え合い、どのような交流活動にするのか一緒に考えていく必要があります。

つくってあそぼう ～秋の木の实を使って～

生活科の学習での交流活動を計画し、グループごとにつくったおもちゃで遊ぶ場面を設定しました。

1年生は園児が楽しんで遊べるよう、どんぐりごまを回す台をいろいろつくって準備していました。しかし、園児からは、台の上だと回すのは難しいとの声があがります。台を使ってほしいという思いもあるものの、床で回すおもしろさも実感している1年生は、園児の思いを受け入れ、回す場所ではなく、回し方のコツについて園児に伝えながら、自分自身の気づきを深めていきました。

園児：「台の上だと回すの、難しい。」
1年生：「じゃあ、床で回そう！」
1年生：「こんなふうに戻したらうまく回ったよ。」

水遊び会 ～遊び道具を持ち寄って～

園児が園で楽しんでいる水遊びを1年生と一緒にしたいという願いから始まった水遊び会。保育者と教師の事前打ち合わせで、園児も1年生もそれぞれが使う道具を持ち寄り、遊ぶ中で共におもしろさを見出すことをねらいにしました。

水遊び会の当日、自分の持ってきた道具の使い方を一生懸命説明する園児に、1年生は1年前の自分の姿を重ねながら、真剣に耳を傾けます。そして、道具の使い方のコツをこれまでの経験を踏まえながら伝え始めます。「おもしろさを伝えたい！」という思いが、実物を持って、具体的に説明する姿を生み出していくのです。遊び始めると、うまくいかない原因を一緒に考えたり、水がうまくとんだおもしろさや喜びを共に味わったりしていました。

園児：「ぼく、マヨネーズの入れ物をもってきたよ。」
1年生：「マヨネーズの入れ物はね、少し空気を入れておくと、うまくとんだよ。」
園児：「空気、入れるって？」
1年生：「(入れ物をもちながら、)ここくらいまで水を入れて、このあと、こうやって、空気を入れてふくらませたいので、おすの。」
園児：「早くやってみよう！」

◆ 日々の学びとつなげる — 「10の姿」とのつながり —

普段の授業や保育をつなげ、交流学习をデザインしましょう。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の視点をもとに、園での経験や子どもの育ちを知り、生活科等の教科のねらいと重ねながら、交流学习のねらいを設定しましょう。

おもちゃランドへようこそ (生活科)

木の実や枝を使ったり、じしゃくやゴムの働き、風力などを利用したりしたおもちゃをつくった1年生が、園児と一緒に遊ぶ計画をしました。そこで、この活動を始める前に、園と小学校で「10の姿」の視点をもとに、次のような学びのポイントを確認しました。

＜道徳性・規範意識の芽生え＞

- ・遊びのルールを考えたり、お店でのマナーを守ったりする。

＜自然との関わり・生命尊重＞

- ・自然物に触れて遊びを楽しみ、つくったおもちゃの仕組みに気付いたり、興味をもったりする。

＜数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚＞

- ・遊びの中で、商品の数を数えたり、量のちがいに気付いたりして数量に興味をもつ。

＜言葉による伝え合い＞

- ・お店の看板やおもちゃなどに書かれている文字を読んだり、遊びに必要な文字を書いたりする。

「10の姿」をもとに考えることで、交流や体験することが目的ではなく、それらを通して育てたい資質・能力が明確になりました。また、接続期の子どもの発達の連続性を捉えることができ、共通した視点から子どもの学びを見取り、それをさらに豊かにする保育者、教師としての支援につながっていきました。

園児は、お店にあるものと看板に書かれた文字を結び付けながら、どんな遊びができるのかを知り、行きたいお店の前に並び、自分の順番を待っていました。そして、自分の番になると、魚を釣りざおでつって、「あと3つだね」とシールがもらえる5つを目標にして、魚釣りを楽しんでいました。

一方、1年生は、園児の遊ぶ姿に合わせ、遊びのルールを工夫し、園児が楽しめるようにしていました。

ともだちにきいてみよう (国語)

1年生の国語で、相手意識をもちながら、質問したり聞いたりする学習を園児と一緒にしました。1年生の学習のねらいは国語科の目標にそって、園児は、「10の姿」をもとに次のように設定して行いました。

＜1年生のねらい＞

- ・園児に分かりやすいように質問を考え、言葉でやりとりを楽しむ。
- ・園児が答えたことをメモする。

＜園児のねらい＞

- ・質問されたことに対して、相手の顔を見て答える。
- ・自分が経験したことや考えたことを、自分なりの言葉を見つけて話す。

子どものやりとりの実際を見ると、1年生がねらいとした聞き取ったことをメモすることよりも、園児の反応を見ながら、質問することを変えたり、自分の経験と結び付けて返したりすることの方が大事だと感じ、次時の学習展開を見直すことにつながりました。

1年生：「今、一番がんばっていることは何ですか。」
園児：「(じっくり考えて) なわとびです。」
1年生：「なわとびは、何とびができますか。」
園児：「前とびと後ろとびとこうさとびです。」
1年生：「すごい！私は、園の時には、こうさとびはできなかった。いつも練習しているの？」
園児：「そう、毎日やるの！」

◆ 振り返りの時間を設定

交流活動には、振り返りの時間を設定し、子ども自身が活動に意味づけできるようにしましょう。

園では、遊びや活動を通して「相手の話を聞くこと」「経験や考えを言葉で伝え合うこと」を大切にしています。保育の中で振り返りの時間を設定し、互いに伝え合う楽しさや話し合うおもしろさを経験できるよう工夫しています。また、小学校でも学習の中での振り返りの時間を大切に、分かったことや考えたことだけでなく、自分自身の変容に気付くことができるようにしています。

子どもたちが、交流活動を通して感じたり、考えたりしたことを自分なりの言葉を使って伝え合い、互いの心を通わせることができるような振り返りを工夫しましょう。

みんなの時間（遊びのあとの振り返りの時間）

小学校の先生から、「今日の活動はどうでしたか？」と問われると、園児も1年生も元気よく手を挙げていました。1年生が堂々と発表する姿を見て、園児も大きな声で話し始めました。話した後、みんなから拍手をもらおうと、園児はとてもうれしそうでした。

振り返りの進行をする小学校の先生だけでなく、園の先生も前にいて、子どもたちの話に耳を傾けることで、園児も安心感を持ちながら、自分なりの言葉で話すことができました。

1年生：「練習の時のようにうまくいかないこともあったけど、幼稚園の子のことを考えてやれたので、よかったし、楽しかったです。」

生き物をさがそう（生活科）

1年生が園庭に来て、園児と一緒に生活科の単元「生き物をさがそう」の学習をしました。1年生と園児が一緒になるようグループ編成を行い、学習の前半は、生き物をさがし、後半には見つけた生き物をグループ内で紹介し合う活動を行いました。

1年生も園児も見つけてきた生き物の実物を見せながら、生き物の名前や様子、見つけた場所などを自分なりの言葉を使って発表していました。ある園児は、ダンゴムシがいた場所を用意していた生き物マップで示して説明してもなかなかうまく伝わらないと感じ、「みんな来て。」とグループのみんなに声をかけ、見つけた場所にみんなを案内しました。そして、その場所でダンゴムシが、マットの下にたくさんいたことを話しました。グループの担当であった園の先生は、マップで説明することを子どもに求めるのではなく、子どもの思いをくみとり、外にさっと出かける手立てをとりました。小学校の先生方も感心し、学ぶことができた場面でした。

園児：「ぼく、ダンゴムシ、見つけたの。さわるとまるまるんだよ。ほら。」
1年生：「あっ、これって、メスだ！」
園児：「なんでわかるの？」
1年生：「ここに、黄色い点々が入ってるでしょ。」
園児：「へえ～、これもメス？」
1年生：「そう。ねえ、どこにいたの？」
園児：「ここに鉄棒があって、マットがあって、その下に。」
1年生：「どんなふう？」
園児：「えーっと（考えて）みんなちょっと来て。」

3 保育者・教師による相互理解

子どもの生活や教育方法に異なりのある幼児教育と小学校教育それぞれに携わる者が、それぞれの教育観を理解し合うためには、子どもの具体的な姿をもとに、話し合っていくことが何よりも大事です。保育や授業を参観して終わりではなく、参観後には、どのような学びの姿が見られたのか、それぞれの保育や授業をどのような考えで進めたのかを振り返って語り合い、聴き合う時間を設けましょう。

◆ 授業参観、保育参観 - 事後の振り返りの時間を大切に -

小学校の指導主事訪問日や園の公開保育の日に、互いに参観し合う小学校区も増えてきました。また、新1年生の学習の様子を元年長の担任が参観したり、入学予定の年長児の姿を小学校教員が参観することも接続推進計画に位置付けている小学校区もあります。さらに、1年生の核となる教科である生活科の授業研究会に参加し、小学校の先生方と共に授業を見て、語り合う園の先生方も増えています。

生活科授業研究会

この研究会は、ブロック毎に行われている小教研の生活科部会での授業研究会です。ブロック内の生活科主任や低学年担当の先生方と共に、公開校の小学校区にある園の先生方が参加しました。

参観しながら気付いたことを書いた付箋紙（子どもの姿と教師の支援）を出しながら話し合いを進めていきました。園の先生方は、生活科の授業の実際を知り、小学校の先生方の細かい手立ての工夫に驚いていました。そして、環境設定の工夫について幼児教育の視点から意見を述べていました。

幼児教育を踏まえた生活科の授業の在り方を子ども実際の姿を真ん中にして考える研究会でした。

園の先生からの意見

- ・もっといろいろな廃材を集めたり用意したりすることで、おもちゃへの発想も広がるのではないかと。
- ・授業の導入部分で、用意していた廃材をじっくり見たりさわったりすることで、製作への意欲も高まったのではないかと。

◆ 夏の保育参加(保育体験) - 子どもの育ちと学びの本質を実感する -

小学校の夏季休業中に、半日、保育を体験します。園の好きな遊びの時間を子どもと共に過ごす中、子どもたちは遊びという体験の中で、さまざまなことに気付き、考え、友達と一緒にやりたいという思いを高めていることに驚かされます。知りたい、やりたいといった学びに向かう力は、そもそも子どもの内にあるものだと改めて気付かされます。

この保育参加は、1年生や低学年の担任だけではなく、管理職も含めた全職員が都合のつく日に出かけています。全職員が体験することで、園での子どもの育ちと保育者の環境づくりを学校全体で共有することができ、幼児教育とのつながりのある教育課程の構築を充実させることにつながっています。

小学校の先生からの感想

園でのびのびと遊んでいる子どもたちの姿を見ると、子どもたち自身がもっている力の大きさに気付かされます。園生活で、ものやこと、自然、人とじっくり関わりがいろいろなことを感じ、考え、表現しようとしている子どもたちの姿に寄り添う園の先生方に学ぶことも多くある体験です。

4 環境や学びのつながりの工夫

幼児教育から小学校教育への接続の在り方を、接続推進会議などの集まりの中で、検討しましょう。特に、子どもが自分の力を発揮しやすい環境や学びのつながりを意識して、どのような活動を入れていくとよいのか、どのような環境を充実させるとよいのかといった、接続期の在り方について話し合いながら進めましょう。

◆ 接続推進会議 – 顔を合わせて、語り合う、聴き合う –

接続推進計画の中には、各小学校区ごとに、接続推進会議が位置付けられています。園と小学校の先生方が顔を合わせて話し合う会議を定期的に行い、接続のP(計画)→D(実行)→C(評価)→A(検証・改善)のサイクルが進められているかを確認し、次のサイクルに繰り上げていく機会にしましょう。

市町ごとに接続会議(年3回)を開催

年に数回、園と小学校の先生方を集め、一斉に各小学校区ごとの会議を開いている市町もあります。

<4月>週案や日案を持ちより、それぞれが行っていることを伝え合い、1年間の接続の見通しをもつ。

<7月>小学校区ごとの接続の実践発表とそれを踏まえた自校の取組を見直し、2学期以降の計画を立てる。

<2月>今年度の取組を振り返り、次年度に向けた展望を話し合う。スタートカリキュラムを作成する。

顔を合わせてそれぞれがしていることを知り合うという「連携」の機会があることで、園と小学校が互いに尊敬し合い、今、関わっている子どもの力を伸ばし、つなぎ育てたいという「思いや願い」が生まれます。これが、「接続」を進める原動力となるのです。

園の先生の声

小学校の先生から今の1年生の話を聞かせてもらって、園でのことがつながっている実感しました。園で基礎を培っていくことが小学校の力や頑張ろうとする気持ちにつながるのだと思うと、日々の生活を丁寧に援助していきたいと思いました。

小学校の先生の声

園でのきめ細かい準備、観察、記録、支援が分かり、驚くと同時に、1年生を担任する責任の重さを感じました。園で学んできたことを学校で受けとめ認めることで、子どもが安心感をもち、力を発揮できるようにしていきたいです。

◆ 保護者への働きかけ – 家庭教育とのつながり –

子どもたちの生活の土台である家庭教育を担う保護者への働きかけについても、接続の視点は必要です。園では、家庭と丁寧につながりをもちながら、子どもの育ちと学びを支えています。この家庭との連携をさらに充実していくためには、まずは、小学校が園での取組を知ることが大切です。そして、子どもたちや地域の実態を考慮しながら、園、小学校、家庭が「育てたい子どもの姿」を共有し、子どもを育てる方向性について共通理解を図りましょう。

家庭教育講座～就学時健康診断や体験入学時に～

就学時健康診断の際に、家庭教育についての保護者向けの講座を行いました。県幼児教育支援センターの家庭教育アドバイザーが、「小学校入学前に身に付けたい生活習慣」について話をしました。そして日ごろの子育ての悩みを共有しながら、子どもの見方を広げ、就学に向けて家族みんなで育っていくことの必要性について考えました。

5 教育課程の構築

幼児教育から小学校教育への接続の目的は、育成すべき資質・能力を見通した教育課程の構築を図り、子どもの育ちと学びをつなぐことにあります。各小学校区における日ごろの接続の取組を生かし、園や学校の全体計画や保育、年間計画を作成しましょう。そして、園での学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくための「スタートカリキュラム」の編成と実施に取り組みましょう。

◆ 学習指導要領におけるスタートカリキュラムの位置付け

「小学校学習指導要領第1章総則」（平成29年告示）に新設された第2の4「学校段階等間の接続」には、以下のように規定され、「スタートカリキュラム」の編成と実施が示されています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

このことから、スタートカリキュラムのねらいは、幼児期までに培ってきた資質・能力を土台として「主体的に自己を発揮しながら、学びに向かうこと」と捉えることができます。そして、このねらいを達成するために、幼児期に培った資質・能力の具体的な姿を理解するとともに、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割の設定が求められています。

入学期には、これまで、主に小学校生活への「適応指導」としてきまりやルールの習得を中心とした指導がなされてきましたが、入学する子どもたちの学びは、決してゼロからのスタートではないのです。園生活の中で、さまざまな生活習慣を身に付け、きまりやルールを自分たちで作り出しながら、それらの意味について考える経験もたっぷりとしています。自分のやりたいことを見つけて、試行錯誤しながら、じっくりと考え、自分の思いや願いの実現に向けて学ぶ力もつけています。子どもたちが、持っている力を見定め、子どもたちと合意形成を図りながら、教科の学びにつながる芽生えを引き出していくことが求められているのです。

子どもたちが園で経験したことを話したり、新たな友達と経験を共有したりしながら、安心して小学校生活をスタートできるよう、カリキュラムをデザインしましょう。

◆ スタートカリキュラムの編成・実施 — 自ら学びを拓く環境の構成 —

子どもが安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えることが大切です。子どものこれまでの経験を踏まえること、友達とのつながりが生まれること、学びのきっかけになることといった視点で、子どもを取り巻く環境を見直すことが必要になってきます。子どもの園での生活を見たり、園の先生からどんな経験をしているのかを聞いたりしましょう。そして、実際に子どもに聞き、子どもから引き出すことが大事です。

朝の時間

「何をしようかなあ」

朝の時間には、お絵かき、粘土、折り紙、算数セット等、選んで遊ぶことができるようにしました。すると、担任は、一人一人がどのような活動を好んでいるのか、どんなことができるのかを把握することができました。

読み聞かせをすると、文字を読むことが苦手な子もお話を好きなことが分かり、そこから、文字への関心をつなげていく支援をすることができました。

休み時間

「一緒にやろう！」

教室にひらがなパズルやカルタ、積木等を用意して、友達と自由に遊ぶことができる環境をつくりました。違う園から来た子どもたちが仲良くなるきっかけになりました。

ものを介することで、人と人とのつながりが生まれることを改めて感じました。



着替え

「園で着替えもしていたよ」

入学式の翌日、制服から体操服に着替えてみました。どの子も「園でもやってた！」と言って、上手にたたみながら着替えていきました。その後、困ったことがなかったかを聞くと、「どこに片付けるの？」とのこと。「廊下のところに袋をかけてね。」と伝え、みんなさっさとかけていました。

何でも一から説明しようとしていた教師としての自分を見直すきっかけになりました。

朝の会

「みんなの顔が見えるよ」



朝の会をしようとする、教室の広がっているスペースに行き、座り始める子どもたちがいました。聞いてみると、園では、「輪になって朝の会をしていた。」とのこと。早速、そこで、朝の会を始めました。輪になってやってみると、一人一人の顔が見えるので、友達の様子も話もしっかりと見たり聞いたりできるのだと改めて思いました。

「このクラスでみんなと共に、今日一日の生活を始めよう。」これが朝の会の意味だと気付かされました。

係活動

「こんな係がいいな」

係活動を決めようとする、「園でもやってたよ。」の声。どんな係があって、どんな仕事をしてきたのかを聞いていくと、上手に説明してくれました。出てきた係を1週間ほど試して、また係について話し合う時間をもちました。すると、「スイッチ係は簡単だから、何かと一緒にできる。」「先生が黒板を消していたから黒板係がいる。」など子どもたちなりに必要だと思う係が出てきました。2学期も同じように、みんな考えた係の仕事をやることにしました。

やる必要があると感じた仕事は、最後まで責任をもってやるんだと子どもの姿を見て思いました。



1日の静と動のバランス

「体を動かしたい！」



朝から落ち着かない子どもたちの様子を見て、聞いてみると「外で遊びたい！」との返答。そこで、園の先生に相談してみると、子どもたちは朝から活動的で、しばらく体を動かすことでその後の学習への向かい方が変わるとのこと。次の日の朝は、みんなで校庭や体育館でしばらく遊んでから、朝の会をすることにしました。朝の会は、遊んだことの話で盛り上がり、子ども同士がつながるきっかけになったり、きまりやルールについて考えるスタートになったりしました。

「静」から始まる1日の流れが当たり前だと思っていたが、子どもの様子を見て「動」から始めるなど、バランスをとることが大切だと実感しました。

◆ スタートカリキュラムの編成・実施

－ 生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実 －

スタートカリキュラムの編成・実施にあたっては、生活科を中心に行うこととしています。それは、生活科が、幼児期の教育と小学校教育との接続を意識するとともに、児童の発達を踏まえ、児童の思いや願いをもとに活動を展開していく教科だからです。そして、幼児期から児童期にかけての子どもの発達には、「自分との関わりを通して、総合的に学ぶ」という特徴があります。この特徴を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが重要です。教科というフレームは、教師側から捉えたものであり、子どもにとっての学びは、そのフレームを越えてつながっているのです。子どもの認識、学びの流れに沿ったつながりのある学習を展開しましょう。

この「生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実」については、「『小学校学習指導要領解説総則編』（平成29年）第3章第2節4学校段階等間の接続（1）幼児期の教育と接続及び低学年における教育全体の充実」に、以下のように示されています。

小学校においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるようにすることが重要である。

その際、低学年における学びの特質を踏まえて、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育むことを目的としている生活科と各教科等の関連を図るなど、低学年における教育課程全体を見渡して、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるように工夫する必要がある。特に、小学校入学当初においては、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、スタートカリキュラムを児童や学校、地域の実情を踏まえて編成し、その中で、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められる。

また「学習指導要領解説生活科編（平成29年）」には、「合科的・関連的な指導」について次のように示されています。

- ◇合科的な指導：各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの。
- ◇関連的な指導：教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの。

生活科を中心にした合科的な学習のデザイン

どうぞよろしく
(国語)



「上の名前と下の名前が分かる書き方がいいね」
「名前の他にもっと書きたい」

学校探検をしていろいろな先生から声をかけられるので、「紙に名前を書いて渡したい。」という声があがりました。どんな紙にしたいか大きさや形について話し合いました。各自が書きたい紙を決めて、名前を書き、クラスの中で交換をしてみました。すると、紙の大きさや名前の書き方への提案、他にも書きたいといった思いが出てきました。

そこで、もう一度各自がつくり直し、それを持って探検へと・・・。

たのしく遊ぼう
(体育)



「線で遊びたい！」

学校探検で、体育館の床にあるたくさんの線を見つけたという子どもがいました。「どんな線なのが見たい！」と声があがり、体育館へ。すると、「この線からあの線まで走ろう。」「円くなった線で遊ぼう。」など、線を使って体を動かしたいという思いが出てきます。

そこで、何をしたいかという話し合いになり、円形の線を使って「転がしドッチボールをしよう」ということになり、みんなで楽しみました。さらに、線にはいろいろな色があることに気付いた子どもから、「色おにごっこもできる！」というアイデアも出され・・・。

学校探検
(生活科)

入学式翌日



「戸がしまっていた部屋を見たい！」
「あの先生の名前を知りたい！」

学校の中をクラスみんなで1周し、教室に戻ってきて発見したことやもっと知りたいと思ったことを出し合いました。すると、友達の発見を聞いて行ってみたくなった所や、もっと知りたいことがたくさん出てきました。

そこで、みんなで学校探検隊員になって学校探検をしていこう！ということになり・・・。

きもちいい
あいさつ
(道徳)

「校長室に入る前に、
どうして何か
言うんだろう？」

学校探検で校長室に行ったグループの子どもが、「先生たちが、校長室に入る前に、「しつれいします」って言ってたよ」と発表すると、「しつれいします」ってどういうこと？」という疑問があがりました。

そこで、言葉の意味やあいさつの必要性について考えてみると・・・。

うたでなかよし
(音楽)



「園歌を紹介したい！」

学校探検で、音楽室の近くを通ったとき、校歌の練習をする6年生のきれいな歌声が聞こえてきました。探検から教室に戻ると、「ぼくたちも校歌を覚えたい！」という声があがります。「校歌って何？」という子の言葉に「園でも園歌があったでしょ。」とつぶやく子。

「ぼくの園にもあったよ。」
「私のところにも。」自然に同じ園から来た子どもたちが集まり、歌い始めると・・・。

かずとすうじ
(算数)

「先生のお部屋に、
机が何個あるのか数えてみたいな」

学校探検で行った職員室は、園の先生のお部屋より広かったことを感じた子どもたちは、いくつもある先生たちの机を数えてみたいと思います。探検から教室に戻り、「先生の机、22個もあったよ。」とみんなに報告しました。すると、「ぼくたちの机とどっちが多いの？」とさらに数への興味を示します。「ぼくたちの机は28個だよ。」「じゃあ6個多い。」と計算をする子もいますが、「本当なの？」と首をかしげている子もいました。

そこで、比べるにはどうしたらいいか、みんなで考えることに・・・。



生活科を中心にした関連的な学習のデザイン

アサガオを
育てよう
(生活科)

「種は何個まこうかな」
「たくさん芽が出て
欲しいな」

アサガオを育てたい！という
思いをもった子どもたちの様子
を見て、担任は2年生に声をか
け、アサガオの種をプレゼント
してもらうことにしました。親
になったつもりの子もた
ちは、種をいくつまこうかと考
えます。「たくさん芽が出て欲
しいから、10個ま
くよ。」「たくさんすぎると鉢
が狭くなるから4つに
しよう。」種の数
を自分たちで決め、鉢にま
きました。次は、「どこに置
こうかな？」植木鉢を置く場
所も、自分たちで決めること
にすると・・・。



アサガオを
育てよう
(生活科)

「芽が出た！うれしい！」
「元気がないなあ、
どうしたんだろう」

「いつでも見られる場所」「お日様がよくあたる
ところ」「ぼくとアサガオだけの秘密の場所」「お
水をやるから水道の近く」一人一人の置く場所への
思いはさまざまで、その子らしさが表れていま
した。数日後、アサガオの芽が出て、ふたばや本葉が
次々と伸びてきました。しかし、一向に芽が出てこ
ない鉢、芽が出ても元気がない様子
のアサガオもありました。「どうし
てだろう？」子どもたちは、置いた
場所の違いを調べ、自分たちなりに
考え・・・。



学校探検
(生活科)

4月下旬

「アサガオ、
育てたことあるよ」

学校探検で、児童玄関に植えてあったきれ
いな花の話から、知っている花の名前やこれ
までに育てたことがある花の話が出てき
ました。中でも、アサガオを育てたこと
がある子が多いことにびっくり！「つる
がのびるんだよ」「ピンクやムラサ
キの花がさいたよ」「種をまくん
だよ」子どもたちのつぶやきを黒
板に記録していくと、アサガオの成
長が分かるものになりました。「種
は、アサガオの子どもなんだよ。」
の声を聞いて、「じゃあ、親になっ
て、育てたい！」という声があが
ります。そこで、一人一人が親
になって、アサガオを育ててい
くことに・・・。



かずとすうじ
(算数)

「まいた種より
3つ足りない」

出てきたアサガオの
芽の数を数えると、
「3つ出たよ。」「6
つとも全部でたよ。」「
5つまいたのに、2
つしか出てきていな
い。」「3つ足りない
ね。」というつぶや
きから、まいた数より
足りない数やみんなの
芽を合わせた数を計
算して・・・。

ひらがな
(国語)

「『あ』のつく言葉、
見つけた」



親になって育てること
にした「アサガオ」の頭
文字「あ」から、「あ」
のつく言葉集めをする
ことにしました。

「中庭には、『あり』
がいたね。」「ぼく、
「あさごはん」食べて
きたよ。」「『ありが
とう』もあがつくよ。」
と黒板に書ききれない
ほどの言葉がでてき
ました。そして、次
は、「さ」がつく言
言葉をさがそうとい
うことに・・・。

自然愛護
(道徳)

「大事に育てているのが死んじやうと
とっても悲しいね」

芽が出てきて喜んで
いる子どもがいる一
方で、芽が出てこ
なかつたり、枯れ
てしまつたりした
子どもたちは、元
気がありません。
そこで、道徳の学
習で、世話をした
生き物を大事に思
ったり、命がなく
なると悲しい気持
ちになるという思
いを出し合い・・・。

形で遊ぼう
(図工)

「葉っぱを並べたら、かいじゅうになつた！」

アサガオの葉っぱが
落ちていたので、拾
って、中庭に落ち
ていた葉っぱと比
べてみると、形が
違うことに気付
いた子どもたちが、
どんどん葉っぱを
拾ってきました。
そこで、その葉
っぱで形づくりを
することに・・・。

〇年度 幼児教育から小学校教育への接続【接続推進計画】 小学校区 > 推進担当者 所属() 名前()

※各園と小学校がそれぞれで園・小学校の欄を書き、幼児教育と小学校教育の2年間の内容を共有する。園と小学校で一緒に接続推進のための活動を考える。

目標	(例) 友達と協力し合い、感じたことや考えたことを伝え合って学ぶ子 (各校区で決める)												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
A園 園長 〇〇〇〇 5歳児担当 代表 〇〇〇〇	年長さんになって ・好きな遊びを見つけよう ・先生や友達と一緒に遊ぼう ・春を見つけよう	友達と いっしょに ・公園で一緒に遊ぼう	いろいろなことをやってみよう ・みんなで相談しながら夏祭りを成功させよう ・夏ならではの遊びをダイナミックにやってみよう	夏祭りたいこの発表		思い切り体をうごかそう ・小学校の体育大会にお兄さんお姉さんと一緒に参加しよう ・A園運動会を楽しもう ・みんなで力を合わせてがんばろう	つくってあそぼう ・廃材などを利用して、工夫してつくってみよう ・1年生のおもちゃを見せてもらおう	冬って楽しいね ・雪遊びを楽しもう ・雪や氷で工夫して遊ぼう	劇や歌の発表				みんな大きくなったね ・思い出してみよう楽しかったこと ・将来の夢を話そう ・卒園式を成功させよう
B園 園長 〇〇〇〇 5歳児担当 代表 〇〇〇〇	新しいクラスになったよ ・先生や友達、小さい組の友達と一緒に遊んだり、過ごしたりしよう ・春をみつけよう	なかよくなろう ・公園でみんなと遊んで仲よくなろう ・1年生のお兄さん、お姉さんと一緒に遊ぼう	夏の遊びを楽しもう ・プール、泥、色水遊びをしよう	夏祭り踊りの発表		力を合わせるって楽しいな ・小学校の体育大会にお兄さんお姉さんと一緒に参加しよう	秋をさがそう ・どんぐりやはっぱを集めて遊ぼう	寒さに負けないぞ ・冬に遊びを通して四季の移り変わりを感じよう ・日本の伝統行事や伝統遊びを楽しもう	合奏発表				いろんなことができるようになったよ ・1年生に向けて期待をもって活動しよう ・大きくなった自分に自信をもとう
C園 園長 〇〇〇〇 5歳児担当 代表 〇〇〇〇	大きい組になったよ ・先生や友達と遊ぼう ・春の自然や身近な生き物に親しもう ・1年生と仲良しになろう ・野菜を育てよう	あの子すごいな ・水遊び・プール遊びをしよう ・園庭でいっぱい遊ぼう ・野菜の世話をしよう ・いろいろな遊びに挑戦しよう	運動会ダンスの発表		力を合わせよう ・小学校の体育大会にお兄さんお姉さんと一緒に参加しよう ・運動遊びをしよう ・ルールのある遊びをしよう ・秋の自然物の中で遊ぼう	みんなですすめよう ・友達と思いを出し合って劇遊びをしよう ・伝承遊びをしよう	劇や歌の発表				もうすぐ1年生 ・1年生に向かって生活を直そう ・みんなで大縄跳びや雪遊びに取り組もう		
D小学校 校長 〇〇〇〇 教頭 〇〇〇〇 1年担任代表 〇〇〇〇	どきどきわくわく1年生 ・がっこうにいこう ・がっこうのことがしりたいな ・なかよくなりたいな	がっこうだいすき ・がっこうをたんけんしよう ・がっこうでみつけたことをはなそう きれいにさいてね、たくさんさいてね ・たねをまこう・まいにちせわをしよう	なつだいっしょにあそぼうよ ・みんなのこうえんであそぼう ・くさばなやむしをさがそう ・つちやすなであそぼう いきものとなかよし	たのしさいっぱいあき いっぱい ・こうえんであきをさがそう ・はっぱやみであそぼう	あきのおもちゃ だいしゅうごう ・あきのおもちゃをつくろう ・みんなであそぼう	ふゆをたのしもう ・そとであそぼう ・かぜであそぼう ・ふゆのこうえんであそぼう	音楽 合奏 とんくるりんぱんくるりん こいぬのマーチ				もうすぐ2年生 ・あたらしい1年生をしょうたいしよう ・もうすぐ2年生		
※ [] は、上記 [] の保育・教育内容以外で交流・参観ができそうな活動。 [] は、園同士の交流。 [] は園と小学校の交流。 ※5歳児と1年生の交流活動は、「一緒に活動する」「共に考える」という互いに学びがある取り組みを行いましょう。													

接続をめざす活動	子ども	教師・保育者
	(例) 一緒に遊ぼう (例) いきものをみつけよう (例) 小学校の体育館で遊ぼう (例) 小学校ってどんなところかな (体験入学等)	小学校で園からの要録の活用や、入学した子どもについての情報交換 保育者が小学校で子どもの様子を参観 園で5歳児の保護者へ小学校入学に向けて家庭でできることの説明会 (教師も参加して内容を聞き、1年生の指導に生かす。) 小学校で5歳児の子どもが就学時健康診断と保護者への話。(保育者も就学時健康診断時の保護者への話を聞き、園だよりなどで、その時の保護者への話を、具体例を交えながら分かりやすく伝えたり、日々の保育・教育に生かしたりする。)
	第1回 接続推進会議 交流活動の打ち合わせ 事後の振り返り 【年間を通して】園だより・学校だより・クラスだより・学年だより等の交換、行事等での管理職の行き来 (例) 6月~7月 授業参観 (指導主事訪問日等)・保育参観 (園からの案内の日等) と参観後の話し合い・研究会 (例) 7月下旬~8月中旬 保育参加 (小学校の教師が保育に参加し、体験する)	第2回 接続推進会議 教師が園で子どもの様子を参観 園と共につくるスタートカリキュラムの作成
	就学時健康診断 交流活動の打ち合わせ 事後の振り返り	